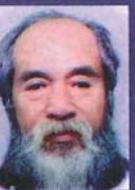


くすりと健康のはなし

葉包紙



第55回

一般社団法人岐阜県薬剤師会
医薬品委員会葉食同源グループ委員

北川宗正

忘年会や新年会、酒席の多い季節になりました。こんな時に活躍するのは多分「ウコン(鬱金)」でしょう。家庭のハーブ園でもよく栽培されていて、「出来過ぎちやつたけど、どうやって利用したらいいの」などの質問を時々受けます。曰く「肝臓にいいお茶」、曰く「草木染めの材料」、「色つきご飯やピラフなどの食材に」…、なかなか消費できない位出来てきます。

現在日本で用いられるウコン

の類は概ね3種プラス1で、秋に白色の花が咲くので秋ウコンといわれるウコン、初夏にピンク色の花を株脇から咲かせるハルウコン、東南アジア原産でやはりビ

ンク色の花を株脇から出すクスリウコンの3種と、紫ウコンともいわれるガジユツ(義尤)で、中国や東南アジアでは更に多くのものが利用されています。

ここで第1の問題。局方「ウコン」は「中藥志」などでは生薬名「姜黃」、これをカタカナで書くと日本ではハルウコンの別名です。ハルウコンの中国での植物名は

「毛郁金」、生薬名「片姜黃」で、植物名と生薬名が日本と中国では逆になっています。

第2の問題、局方「ウコン」は根茎を乾燥して用いますが、中国での生薬名「郁金」は塊根で、根茎とは全く別の物です。多分日本で「川玉金」といわれるものが中国で「郁金」といわれるものに相当するのかもしれません。

第3に、生薬の性味が、生薬名「姜黃」や「莪朮」は「味・苦・辛・性・温」ですが、生薬名「郁金」は「味・辛・苦・性・寒」とあり、薬性が異なっています。

このように生薬の世界には混乱がみられることがあります。整理が必要です。

「ウコン」を応用する場合には、閉塞性胆道疾患や、肝硬変で鉄除去療法を受けている人には禁忌です。しかし、服用して倦怠感や食欲不振、発疹、瘙痒、黄疸などがみられる場合には、薬剤性肝障害を疑い、服用を中止して医療機関で検査を受けるようにしてください。また、手術予定の2週間前からは飲まない方がいいでしょう。